

子どもが漢字を間違っただとしても、神経質になってはいけません。たとえば「鳥」という字を習った子どもは、「鳥」を見ても最初は「鳥」と読みます。これは仕方ないことなので、責めてはいけません。

「『鳥』と『島』を比べてごらん下さい。どこが違っているでしょう？」

「あっ、こっちは点々でこっちは山だ。山がつくと『島』になるんだ」

こういうことで覚えた漢字は決して忘れません。もう「鳥」と「島」を間違えることはありません。つまり子どもに納得させることが肝心なので、間違っただからといって叱ったり神経質になる必要はないわけです。

漢字を教えるといっても、ただむやみやたらに教え込んではいけません。たとえば鳩や鶴を教え、そこから鳥を教え、そうして島にいたるような、ある程度の系統立てはあったほうがいいでしょう。

こういう覚え方で、幼児は理解しながら漢字を覚えていくのです。